

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201384		
法人名	クリーンハウス(株)		
事業所名	グループホームたんぼ札幌新道東		
所在地	札幌市東区北36条東21丁目3-3		
自己評価作成日	令和4年1月3日	評価結果市町村受理日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201384-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念に基づき、一人ひとりの想いを大切にその人らしい生活が出来るように日々の関りの中でも気づきを大切に支援しています。安心できる環境を作り、穏やかな気持ちで楽しみや役割を持って生活をされています。
また、新しい気づきには柔軟性を持って対応できるように日々知識と技術の向上に努め、利用者様本位のより良いケアが提供出来るように努めています。

グループホームたんぼ札幌新道東は開設5年目を迎える2ユニットの事業所です。地下鉄駅から徒歩圏内にある閑静な住宅街に立地し、周辺には公園が広がり自然や季節の移ろいを楽しめる環境にあります。敷地内には系列の保育園があり園児達の明るい声が響いています。災害避難訓練は隣接の保育園と合同で実施しています。改めて理念を見直し、法人介護事業部全体の共通理念として「ミッション」と「ビジョン」を掲げ、法人が行う研修会や身体拘束適正化委員会でも共通認識を図っています。家族との面会は感染状況に応じて制約はありますが、予約制の15分面会、窓越しやオンライン面会などで対応しています。管理者は家族とSNSで繋がり、利用者の今の様子を画像で配信したり、暮らしぶりの報告、要望を汲み取り対応し、電話でも都度報告するなど関係継続に努めています。コロナ禍で外出行事は自粛中ですが、誕生会、季節行事、月2回の楽しみ昼食会では手作り料理を中心に、要望に応え寿司や仕出し弁当などの出前も加えて、食を楽しむ幅を広げています。また、巣籠り生活での気分転換を目的として、玄関先にタープを張った野外カフェ、駐車場での焼肉、人気を避けた散歩、車外に出ないドライブなど、感染症対策の徹底を図りつつ、今出来ることは何かを見出し取り組んでいます。管理者と職員はスマホアプリで情報を共有しチームケアで、利用者本位の健やかな生活を支えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が介護理念を理解し実践できるよう研修を行っている。身に着けているネームプレートの裏には、介護理念を入れており常に確認できる環境のもと職務にあたった。また、ユニット内にも掲示していることで職員間での共有を行いながら実践につなげている。	今年度新たに全職員の意見を取り入れた「ミッション」と「ビジョン」を、共通理念として策定しました。事業所は、今までの介護理念と行動指針と共に要所に掲示し意識付けを図っています。新人研修や職員会議等で理念の掘り下げやケアの実践の確認を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年後は、新型コロナウイルス感染拡大により前年度よりも交流できる機会が減ってしまった。感染予防を行いながらはあるが、町内会のイベント(七夕)では窓越しに子どもたちと触れ合い、お菓子を渡し参加できた。	町内会や子供会で開催される七夕や神輿担ぎ、ハロウィン行事では窓越しで互いに楽しむ時間を持つなど、自粛時でも交流の継続に努めています。利用者が作った雑巾を小学校に寄贈しています。回覧板はコピーして利用者に回しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年後は、新型コロナウイルス感染拡大により前年度よりも交流できる機会が減ってしまった。感染予防を行いながらはあるが、町内会のイベント(七夕)では窓越しに子どもたちと触れ合い、お菓子を渡し参加できた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年後は、新型コロナウイルス感染拡大により前年度よりも交流できる機会が減ってしまった。感染予防を行いながらはあるが、町内会のイベント(七夕)では窓越しに子どもたちと触れ合い、お菓子を渡し参加できた。	コロナ禍で書面方式で行われ、会議構成委員には事前に電話で意見や情報を聞き取り、集約した内容と共に利用者状況、活動報告等を記載した議事録を構成委員と全家族に配布し、事業所の実情を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へ毎月月初めに入居状況の報、事業所の空床状況の報告を行っている。また、困難事例に対して行政として意見を求めたり相談したりと利用者様の処遇等の向上に努めている。	運営上の課題や疑問点等は都度担当窓口を確認を行い、説明や助言を受けています。今年度は感染症対策、ワクチン接種、PCR検査等の詳細な情報や指導など連携を深め、予防強化に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設置し、職員会議や研修を通じて身体拘束の知識を深める取り組みを行っている。	指針の整備、身体拘束適正化委員会及び研修会は法人全体で定期的に開催しています。委員会では職員のアンケート調査で得た課題や事例を検討し適切な指導を示し、職員は各自ケアを振り返り、身体拘束の弊害について理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、職員会議や研修を通じて虐待についての知識を深める取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や研修を通じて権利擁護についての知識を深める取り組みを行っている。また、開設後に成年後見人制度を促し活用した事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず見学を行っていただき、入居契約時には、ご家族や本人から充分にアセスメントを行い不安や疑問な点を尋ね、解決しながら充分に説明を行い納得させてから入居契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、利用者様ご家族との良好な関係を築くことで、来設された際に気軽に意見等が言えるように努めている。ご意見箱の設置、面会自粛期間中は郵送にてご家族様からの意見や要望を取り受けており、ホームで反映できるように話し合いを行っている。	現況では面会を休止していますが、管理者はほとんどの家族とSNSで繋がりがり、頻回に健康状態や様子を伝え、意見や要望を汲み取っています。電話連絡も都度行っています。運営推進会議録に加えて、居室担当者が毎月、個別の生活情報報告書を作成し家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の発言しやすい環境作りを実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。職員会議等で出た意見や提案は反映できるように努めている。	毎月の職員会議、年4回の個人面談を行っています。常に話し易い雰囲気、朝・夕の申し送り等でも意見交換を行っています。職員はそれぞれ役割を担い、業務やケアに関する話し合いを行っています。トイレに衛生用品管理のための棚の要望が有り設置しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況や家庭環境等に配慮し、個々の能力の向上を目指した研修等の取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得制度や、各種研修会の実施を行っている。職員個々の事情により研修会への参加が困難な場合でも、Eランニングなどを活用し全職員が受けれるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新型コロナウイルス感染防止について、グループホーム連絡協議会で情報交換を行っており、他ホームとの情報共有、感染予防に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談にて、管理者および計画作成担当者より利用者様、ご家族様の不安や要望をお聞きしながら、心配事を共有し施設での支援方針を固め良好な関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成がご家族様と話し合いの場を設け、不安や要望をお聞きし良好な関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談やご本人、ご家族様からのお話を基にどんな支援が必要なかの情報を把握し生活状況のアセスメントを行いながら必要な支援がすぐに形となるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気なのか、介護をされていると感じる事が少しでも少なくなるように共に作業を行う等、一人ひとりの思いを大切にケアに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様宛に生活報告書を郵送、インターネットでの写真の配信も行い家族とのつながりを大切にしている。また、電話での情報報告や窓越しでの面会の実施を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのものや場所の話に耳を傾けながら、今までの関係やつながりを途切れてしまわぬよう支援に努めている。面会でできない時期に絵葉書を作成し郵送を行った。	以前はオンライン面会で連絡を取っていましたが、現在は面会を休止しています。家族や友人から電話や手紙、年賀状が届き、時には職員が代筆や投函を支援し、関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が協力して作業を行うことや、できない部分を他利用者様がフォローしてくれており皆孤立した環境にならないように馴染みの関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設での生活が困難となり、退去となった方には、次の入居先の相談や新しい入居施設に入られてからも必要に応じて相談支援などを行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者様の思いや意向を把握し、支援に努めている。アセスメントシートを活用し、職員間の情報共有を行い、想いに寄り添えるように努めている。	職員それぞれ関わりの中から得た言葉や思い、暮らし方の希望等をアセスメントシートに記載し共有を図っています。困難な場合でも反応や仕草で感じ取り把握に努めています。	
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には、ご本人様、ご家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境についてお聞きし、基本情報やインフォメーションシートを作成し職員間で共有している。入居後は、関りの中で新しい情報があればアセスメントシートで共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の馴染みの暮らし方や1日の過ごし方を把握し個々の介護計画に生かすとともに、モニタリング、アセスメントシート、支援経過記録、医療記録に職員間での情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を3か月に1度モニタリングを行い、担当者会議を開催し話し合いを行っている。課題点は、ご家族や医療との協議を行い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の見直しは3か月ごとで、担当職員と介護支援専門員が中心となりモニタリングをしています。利用者や家族の意向をもとに、医療関係者の助言を踏まえ、その人らしい暮らし方の課題やケアのあり方について担当者会議を行い、現状に合わせた介護計画を作成しています。緊急時は随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に支援経過記録、アセスメントシート、医療記録等で日々の支援内容を記録し、職員会議や、ハングアウトを活用しながら情報共有に努めている。記憶物の見直しを行い介護記録のみなおしに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせて、管理者と話し合い迅速柔軟に対応が出来るように心掛けている。家族との協議の際は、最善の支援となるように何通りかの提案ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の保育園の子どもたちとの交流、近隣の飲食店でのテイクアウトや出前などの利用を行い地域資源を活用に安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医による定期的、断続的な医療を受けている。必要に応じてご家族様と往診医との話し合いの場を設ける事によって、安心、納得できる医療に繋げている。検査等で今までかかっていた病院に受診する際は、送迎や付き添い支援を行い適切な医療が受けられるように努めている。	受診は利用者、家族の意向に沿っており、利用者全員が24時間、毎日対応の協力医療機関の訪問診療を受けています。歯科、皮膚科も希望往診対応となっています。専門医への受診は職員が支援し、看護師は協力医療機関から週1度定期訪問があり、適切な指導や健康管理に当たっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用し、往診医、訪問看護師との情報共有に努めている。日々のケアの中で気になることは迅速に医療との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、ご家族様と共に説明を受けご本人の様子や、ご家族様の希望を報告し、病院との情報共有や相談を行っている。早期の退院が出来るように施設の意向も報告している。退院後の生活に向けて病状の把握などの情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず、重度化した場合の介護指針を説明し、ご家族様より同意を頂いている。重度化した場合は、主治医、管理者、計画作成担当者、ご家族と話し合いチームで支援していく取り組みを行っている。	重度化における対応指針に看取りの基本姿勢や支援内容を詳細に記載しています。入居時や、重篤な状況で繰り返し説明を行い、意向と同意を確認しています。看取りを希望する場合、主治医、家族、事業所の三者で支援方法を共有し、家族の思いに寄り添い、出来る限りの支援にチームで取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成や、応急救護の研修を受けている。個々の利用者様に起こりうる状況を予測し主治医から指導を受けることもある。今後も、実践力を向上できる取り組みを行っていく必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練の実施を年2回、実施している。災害に備えて備品や備蓄などの整理、見直し、職員研修の実施を行っている。	今年度の避難訓練として令和4年2月と3月に夜間想定火災及び地震後の火災避難訓練を隣接の系列保育園と合同で行う予定です。消防用設備点検の実施、自家発電機の設置、非常用備蓄品を確保しています。	予定の火災避難訓練及び自然災害を想定した避難訓練の実施を期待します。訓練時に発電機の操作方法を全職員で学び、操作できるようすることが望まれます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した声掛けを心がけている。プライバシーに配慮しながら、信頼関係が築けるように努めている。	人格の尊重を示した理念に沿って、職員はケアサービスの基本を理解し、利用者のプライバシーの保護に努め、尊厳のある暮らしを支援しています。特に排泄面では誘導時やトイレ内での不必要な介助支援を避け、羞恥心やプライドに十分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中や本人の思いを大切に、利用者様が自己決定できるような声掛けやかかわり方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の主体として動きがちではありますが、一人ひとりの想いに寄り添った生活を支援が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の定期的な利用や、衣類の買い物支援などを行っている。また自分らしい身だしなみ、おしゃれ、化粧が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食事の準備や後片付けを行って頂けている。包丁を使う方、盛り付けをする方など、個々の能力に合わせて支援し、楽しみのある食事の時間を心掛けている。	献立は利用者の嗜好や栄養バランスに配慮して手作りしています。不定期ですが調理専門職員を配置しています。誕生会や季節行事に加えて、月2回の楽しみ昼食会を企画して、寿司や弁当の出前、お好み焼き、ホットケーキ、外での焼肉など要望に応え、楽しみの多い食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、食事量のチェック表を用いて情報の共有を行っている。個々の食形態や嗜好を考慮した調理方法の検討、食器の検討などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアの声掛け、介助が必要な方の支援を行っている。舌ブラシの使用や、義歯の調整や残存歯の治療には訪問歯科の利用を行いながら口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄の間隔をつかみトイレでの自排尿を促している。排泄用品の検討や、間隔の検討を随時行い、自立に向けた支援に努めている。	職員はトイレ排泄を基本と考えており、排泄チェック表を活用し、定期誘導や様子を観察して声掛けを行い、過剰介護を避け自立に向けた支援を心がけています。便秘時も医師の指導で薬や食事を工夫し、快適な排泄を継続できるよう努めています。ポータブルトイレ使用や衛生用品の活用は利用者の状況に合わせて使い分け、失敗の軽減に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、排泄のチェックシートを活用し、排便間隔を把握し、体操や散歩などで適度に運動できる環境を作り自然排便が出来るように努めている。便秘の際は、ご本人に無理のかからないように配慮しながら主治医の指示のもと下剤の服用を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の希望に沿った入浴が出来るように、時間等の配慮に努めている。気持ちよく入浴出来るように入浴剤を選んでもらうなどの工夫をしている。プライバシーにも配慮し、個々で介助が必要な部分の支援を行っている。	毎日入浴準備を行い、週2回以上を目安に支援しています。ほとんどの利用者が湯船に浸かっています。体調や状況に応じて無理強いをせず、シャワー浴、足浴、清拭など支援方法を工夫し、同性介助も取り入れ衛生保持に努めています。好みの入浴剤や湯上りの飲物が楽しみの一つとなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望に沿って居室で休まれる時間を設けたりソファでくつろいだり自由で過ごしていただいている。体調に考慮しながら、声掛けを行う場合もあります。皮膚状態や身体的な状況の変化によって寝具や福祉用具の活用もご家族様と相談を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をファイル化し職員が確認できるようにしている。変更や臨時薬剤が処方された場合には、医療記録、ハンアウト等で情報の共有を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合わせて、居室の掃除機かけや衣類の洗濯、洗濯物たたみなどを日常的に行っている。ミシンが得意な方は雑巾作りなど張り合いのある生活ができるように支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染拡大により、外出レクの中止を余儀なくされてしまった。近隣の公園への散歩や敷地内での洗濯干し、日向ぼっこなどで季節感を少しでも味わえるように支援している。	コロナ禍で外出は自粛していますが、玄関先にタープテントを張った野外カフェや駐車場での焼肉を楽しんでいます。プランターの野菜に水遣り、密を避けた周辺の散歩、車外に出ないドライブなど感染症対策を講じながら工夫検討し可能な支援に取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難になってきているため、ご家族様と相談の上ご本人様の預かり金の中で買い物を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様が希望される場合は、いつでも電話を利用したり手紙の郵送ができるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでも居心地よく生活できるように、室温や湿度、音や光に配慮し、心地よい環境作りに努めている。季節感のある装飾を掲示したり、日めくりカレンダーを作成し見やすい位置に配置している。	日当たりの良いリビングにはソファや食卓テーブルがバランス良く配置され、利用者、職員が作成した季節の装飾品、スナップ写真、手作りカレンダーが掲示されています。マガジンラックには雑誌や本が収められ、利用者専用冷蔵庫には個々に好きな食べ物を保管するなど、日常の生活感を程良く取り入れ、快適な環境を作り上げています。感染症予防対策に努め、温湿度管理を徹底しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で、おしゃべりしたり個々の居室へ遊びに行くなど思い思いに過ごされている。テーブルやソファの配置を工夫し、共有スペースでも個々の居場所ができるように配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた家具やなじみのものを持っていただけるようにご家族に説明を行っている。ご本人様が心地よく過ごせる空間を作っている。思い出の場所や物の写真を掲示するなど工夫している。	居室にクローゼットを設置し、入口には家族手作りの表札を掲げています。自宅との環境変化を少なくするために、馴染みの品々を用意するように依頼しており、持ち込まれた調度品や仏壇などは動線に配慮しながら配置し、その人らしい落ち着ける居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る力を引き出せるように、一人一人の身体機能の把握を行い、できる部分まで奪わないように、自立性を高めていける支援に努めている。施設内はバリアフリーではあるが、危険の予測を行い安全に生活できるように配慮している。			